新生児聴覚スクリーニングの権利放棄

赤ちゃんの聴力検査を受けないことを選択されたと承っています。医師にかかる際は、赤ちゃんが聴力検査を受けていないことをお伝えください。

このパンフレットでは、聴力検査に関する重要な情報を解説します。検査の実施方法、またなぜ赤ちゃんにとって検査が重要なのかを説明しています。

赤ちゃんの聴力検査は後日受けることもできます。詳しくは、かかりつけの医師、または無料ダイヤル1-877-388-5301までお問い合わせください。

難聴の赤ちゃんの割合

重度な難聴は、赤ちゃん1,000人中2〜4人に見られます。難聴の赤ちゃんの約50%は、既知の徴候や、重大な病気や難聴の家族歴などの危険因子がありません。耳の感染症、髄膜炎、頭部外傷、その他の病気が原因で後の段階で難聴になる赤ちゃんもいます。不明な理由で赤ちゃんが聴力を失うこともあります。

赤ちゃんのうちに検査を行う理由

難聴は見てわからない場合があります。現在では、技術の発達により、生後間もない赤ちゃんのうちに難聴を発見することが可能になっています。

子供が生まれてから最初の数ヶ月間から数年間は、コミュニケーション能力の発達に非常に重要な時期です。難聴や聾の赤ちゃんは、正常な言語能力の発達が困難であったり、学校で授業についていくのが難しかったりすることがあります。このため、難聴を早く発見し、赤ちゃんとご家族に特別なサービスを提供することが重要です。

赤ちゃんのためにできることはあります

赤ちゃんの難聴が早く発見されるほど、早期の治療が可能になります。最近の研究では、生後数ヶ月の治療が生涯にわたる違いを生み出すことが明らかになっています。難聴または聾で、生後6ヶ月までに介入サービス（特別支援）を受けた赤ちゃんは、正常な聴覚を持つ赤ちゃんと同じ速度で言語やコミュニケーション能力が発達する可能性が高くなります。また、このような場合、学校で成功する可能性も高くなります。

米国小児科学会をはじめとする専門機関はすべての新生児に聴力検査を行うことを推奨しており、聴力は幼児期を通じて注意深く観察する必要があります。

聴力検査の方法

検査は赤ちゃんが眠っている間にわずか数分で完了します。赤ちゃん専用のイヤホンから小さな音を流し、音に対する赤ちゃんの反応を耳音響放射（OAE）または聴性脳幹反応（ABR）によって自動的に測定します。

現在のスクリーニング方法は簡単ですが非常に信頼性が高いものです。赤ちゃんの聴覚障害が見落とされることはめったにありません。

赤ちゃんの次のステップ

聴力は赤ちゃんの成長に合わせてチェックする必要があります。新生児聴覚スクリーニング検査は、赤ちゃんの聴力、発語、言葉の発達を観察する過程の第一歩です。赤ちゃんの言葉や発語がどのように発達していくか、注意を払うことが重要です。

パンフレットに掲載されている「年齢別の聴力と発語の段階」には、大部分の赤ちゃんが月齢別にできるようになることの一部が記載されています。赤ちゃんの成長に合わせて、行動や発語をリストの内容と照らし合わせてみましょう。赤ちゃんの聴力について心配なことがあれば、すぐにかかりつけの医師や医療機関に相談してください。

聴力検査の費用負担

新生児聴覚スクリーニングには、一般的には保険が適用されます。Medi-Calにより、対象となる赤ちゃんのスクリーニング費用は負担されます。

年齢別の聴力と発語の段階

年齢	聴力と発語の段階
出生時～生後3ヶ月	» 聞き覚えのある声や音に反応して静かになる » 大きな音に反応して驚いたり、まばたきをしたり、吸うのをやめたり、泣いたり、目を覚ましたりする » 目覚めている時に喉を鳴らしたり小さな声を出す
3～6カ月	» 音、声や、音の出るおもちゃ、犬の吠える声などに目や頭を向ける » 「が」「うー」「ば」、p、b、mなどの発音ができるようになる » 人の声音の変化に反応する

年齢	聴力と発語の段階
6～9カ月	» 自分の名前に反応し、呼ばれると顔を向ける » 「だめ」「バイバイ」「ジュース」などの簡単な言葉を理解する » 「だだだ」「ままま」「ばばば」などの喃語を発する
9～12カ月	» 小さな音、大きな音の両方に反応する » 単一単語を繰り返したり、動物の鳴き声を真似たりする » 尋ねられると好きなおもちゃや食べ物を指さす
12～18カ月	» 10以上の単語を使用する » 「ボールを取って」などの簡単な口頭の指示に従うことができる » 尋ねられると、人や体の部分、おもちゃを指さす » 音楽に合わせて体を動かす
18～24カ月	» 20以上の単語を使用する » 「ジュースもっと」「あれ何？」のように2つ以上の単語を組み合わせられる » b、g、mなどのさまざまな子音を単語の最初に使うことができる » 簡単なお話や歌を聞ける
2歳～3歳	» 2～3語文を使用する » 2歳児の話している内容は、他の人がある程度（25%～50%）理解できる » 3歳児の話している内容は、他の人がほとんど（50%～75%）理解できる » 「ボールを取ってきて、テーブルに置いて」のような2段階の指示に従うことができる

聴力は何歳のときでも検査できます。

カリフォルニア州のNewborn Hearing Screening Programの目標は、難聴の赤ちゃんを特定し、生後6ヶ月までにサービスを提供することです。プログラムではHearing Coordination Centerと連携しており、ご家族、医療提供者、病院と協力して、子どもたちが必要なサービスを受けられるように支援しています。

Newborn Hearing Screening Programでは、衛生安全条例第124119条に基づき、赤ちゃんの聴覚スクリーニングに関する情報を収集しています。Hearing Coordination Centerは、ご両親と赤ちゃんが必要なサービスを受けられるよう、この情報を利用することがあります。また、Hearing Coordination Centerから追跡サービスに関してご連絡させていただく可能性があります。

Newborn Hearing Screening Programの詳細については、こちらをご覧ください、

- 無料ダイヤル：1-877-388-5301
- または www.dhcs.ca.gov/services/nhspをご覧ください。